

第 98 回大腸癌研究会リンパ節委員会 議事録

2023 年 1 月 26 日 (木) 9:00~10:00

浜松町コンベンションホール 5F 大ホール A + WEB

<出席者 (敬称略)>

金光幸秀 (国立がん研究センター中央病院)、神藤英二 (防衛医科大学校)、小川真平 (東京女子医科大学)、野澤宏彰 (東京大学)、川村純一郎 (近畿大学)、川合一茂 (がん・感染症センター都立駒込病院)、塩澤 学 (神奈川県立がんセンター)、高山裕司 (自治医科大学)、女屋博昭 (愛知県がんセンター)、三口真司 (県立広島病院)、高見澤康之 (事務局、国立がん研究センター中央病院)

<WEB 出席者 (敬称略)>

小澤平太 (栃木県立がんセンター)、渡邊 純 (横浜市立大学附属市民総合医療センター)、須藤 剛 (山形県立中央病院)、秋吉高志 (がん研有明病院)、大内晶 (愛知県がんセンター)、片岡幸三 (兵庫医科大学)、安井昌義 (大阪国際がんセンター)、池田 聡 (県立広島病院)、丸山 聡 (新潟県立がんセンター新潟病院)、

(以上 19 名)

<議事>

(1) リンパ節委員会から出ている過去論文のレビュー

- 事務局からの発表
- 神藤先生からの発表

事務局より 2016 年以降にリンパ節委員会から発表された過去論文 10 編のレビューがあり、その後神藤先生より N 分類/Stage 分類に関する論文の解説がされた。N3 の有無が予後に与える影響は部位 (右側、左側、直腸) で異なり、下部直腸においては N3 の有無は TNM の N 分類の層別化に大きく寄与しなかった、と報告されたが、この点に関しては施設間で統一された基準で側方郭清が行われていないことがバイアスとなっている可能性が指摘された。

(2) 過去論文を踏まえて、研究テーマの仕分け

事務局より研究テーマの仕分け案が発表された。次期改訂規約に取り上げられる可能性が高いものとして「脾弯曲部癌におけるリンパ節転移状況に関する検討」、改訂規約に

取り上げられるかは不明だが、継続して研究を続けるべきものとして「N 分類に関する検討」「LNR に関する検討」が挙げられた。「MRI を用いた下部直腸癌におけるリンパ節転移予測因子の検討」に関しては別委員会引継ぎのためリンパ節委員会での取り扱いは終了、「RS 癌の切離端距離に関する検討」に関してはリンパ節委員会での検討内容から外れるため取り扱い終了となった。

(3) 上記を踏まえて、今後の研究テーマの提案と担当施設の選定、方法論の検討

- 委員長/事務局からの提案
 - N3 分類の再定義
 - LNR の意義に関する検討
 - リンパ節転移陽性基準の検討
 - 側方リンパ節アトラスの作成

上記 4 案が事務局より提示された。各案には次のような意見が出た。

- LNR の意義に関する検討
 - ・郭清リンパ節の分け方は施設間での差もあるため規約収載は難しいと思われる。
- リンパ節転移陽性基準の検討
 - ・臨床的なリンパ節転移の有無をサイズで分けるとどうしても重複してしまう部分が出てくるが、後方視的なデータから各部位（結腸間膜 LN、直腸間膜 LN、側方 LN）ごとにリンパ節サイズの至適カットオフ値を検討することが望ましいのではないかと。
 - ・MRI は陰性的中率が高いので、陰性基準を提案する形を検討してもよいかもしれない。
- 側方リンパ節アトラスの作成
 - ・側方領域は曖昧な部分もあるためアトラスを作成し境界を提示することには意義がある。
 - ・側方リンパ節アトラスは以前の委員会でも検討されたが、委員同士の意見がまとまらず保留となっていた経緯がある。

最終的に LNR を除いた「N3 分類の再定義」「リンパ節転移陽性基準の検討」「側方リンパ節アトラス」の 3 つのテーマに関して今後も引き続き検討を行う方針となった。

- 三口先生からの提案
 - 副右結腸静脈周囲リンパ節の取扱いに関する検討

三口先生より上記テーマの提案がされた。こちらのテーマに関しても引き続き前向きに検討を行う方針となった。

(文責：事務局 高見澤康之)